

## 第4章 活動成果



## 第4章 活動成果

### はじめに

前年度と比べ、今年度大きく進展した点としては、千葉大学生の派遣に加えて、JASSO 奨学金支援の基、連携大学の学生受入れプログラムも開始したことがあげられる。受入プログラムでは、2週間に渡り、千葉大学学生との授業づくり、研究室交流、日本文化体験等を実施した。また今年度より、千葉大生派遣のコースとして設定している、トライアル・ショート・ロング3つすべてを実施し、より研究と実践の融合を進めるという成果も得ることができた。

以下、今年度の実践に伴う具体的な成果と課題について、項目別に述べる。

### 1. ASEAN 連携大学からの学生受け入れ

ASEAN 連携大学からの学生受け入れには、本プログラムで千葉大生がより現地のニーズをくんで授業開発を進めるために、ASEAN 学生との協働を促進するという目的がある。そのため、千葉大学の学生を派遣する前に、受入れプログラムを実施する必要があった。連携大学の都合等も勘案し、7月に2回に渡りインドネシアの5大学、そして11月及び12月に2回に渡りタイ、ベトナムの3大学の受入れ（2週間コース）を行った。さらに本学学生と同様、より長期にわたり滞在し研究交流を進めることを目的とした長期受入れコースも設定し、各研究室との調整のもと実施した。

表 各大学の受け入れ期間と人数

インドネシア大学	7/2~7/11 (10名)		
ウダヤナ大学	7/2~7/11 (5名)		
ガジャマダ大学	7/2~7/11 (10名)		
バンドン工科大学		7/16~7/25 (10名)	
ボゴール農科大学		7/16~7/25 (8名)	
チュラロンコン大学			11/11~11/21 (10名)
ベトナム国家大学ハノイ校教育大学			11/11~11/21 (11名)
キングモンクット工科大学トンブリ校			12/9~12/18 (教員3名・学生13名)
2週間以外の長期受入れ		インドネシア大学3名 10/25~11/15	バンドン工科大学2名 2013/12/11~2014/2/28 キングモンクット工科大学トンブリ校2名 2014/1/14~3/24

2週間コースの学生のプログラム内容は大きく分けて、①ツインクル参加学生との授業開発、②協力研究室での研究交流、③本学附属学校での授業観察、の3つである。③については、日本人学生と科学授業の開発を行うに際し、日本の中等教育機関における理科授業の現状をみることで各国との共通点・異なる点の相互理解を深め、より効果的に協働を進めていけるようにすることを目的として実施した。

表 2週間コースのプログラムスケジュール

1<sup>st</sup> week

Mon	Arrival
Tue	Orientation
Wed	Laboratory Coursework (Alternative Class) 1
Thu	Laboratory Coursework (Alternative Class) 2
Fri	Laboratory Coursework (Alternative Class) 3
Sat	Workshop on internship (with Chiba Univ. students) 1
Sun	Cultural experience (Free time)

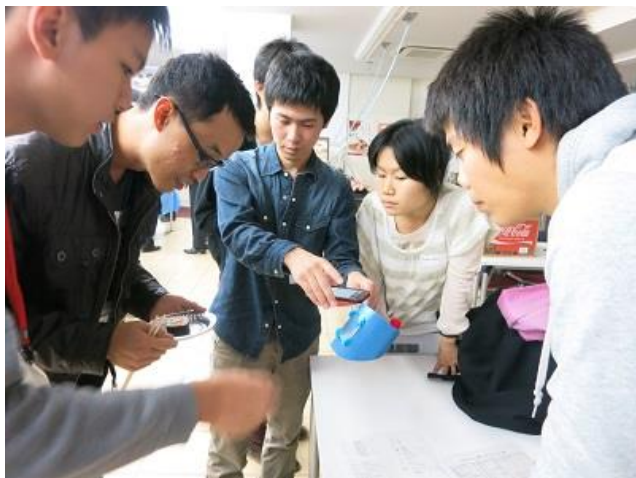
2<sup>nd</sup> week

Mon	School visit at attachment junior high school of Chiba Univ.
Tue	Workshop on internship (with Chiba Univ. students) 2
Wed	Preparation of feedback presentation
Thu	Feedback Presentation / Departure from Japan
Fri	Departure from Japan

【Laboratory Coursework】

- ・ Medium of instruction is in English
- ・ Workshop in each laboratory (research presentation)
- ・ Research facility tour
- ・ Participate in a simulation activity

### ツインクル参加学生との授業開発



授業での実験器具を見せ、意見を求めている



テーマに関する話し合い

### 研究交流



### 本学附属学校での授業観察



## 2. 現地活動記録

### 最終打ち合わせ

学生派遣直前に、各協定大学と受け入れ体制についての最終的な確認を行うために特任教員2名が3大学を訪問した。

8月28日：特任助教大島，特任助教エイプリル出国

8月29日：チキニーで既に活動しているロングコース学生の活動の視察，インドネシア大学にて打ち合わせ



作業員を見守る澤井君



チキニーにUI と共同で建設中の建物（図書館）

8月30日：ウダヤナ大学

打ち合わせした内容等は、主に以下のことである。一ヶ月の活動内容，学生の交通手段，SMA 1 と SMA 2 への挨拶及び実験器具の確認，Kost の確認及び支払い。SMA 1 及び SMA 2 では，Certificate of appreciation を学校長へ渡した。これに対する反応は良く，記念撮影も行った。



SMA 1 学校長

Drs. I Nyoman Purnajaya, M. Pd 氏と



SMA 2 学校長

Drs. Ketut Sunarta, M. Hum 氏と

8月29日：特任助教馬場出国

8月30日：ボゴール農業大学、および受け入れ高校での設備確認等打ち合わせ。

その他の大学に関しては、既に十分に打ち合わせができていると判断し、実際に訪問して最終打ち合わせは行わなかった。

〈平成25年度 TWINCLE プログラム学生派遣実績〉

平成25年度前期は以下のように58名の学生が、インドネシアに派遣された。

(33～85 ページ)

コース名	学生ユニット	受入大学	学生派遣人数	派遣期間
トライアル コース	A, B, C	インドネシア大学	9名	9/2-9/15
	F, G	バンドン工科大学	8名	
	H*	ウダヤナ大学	2名	
	N, O	ボゴール農業大学	6名	
	H	ウダヤナ大学	2名	9/16-9/29
	K, L, M	ガジャマダ大学	14名	
ショート コース	D*	インドネシア大学	2名	9/17-10/6
	H*, I, J	ウダヤナ大学	11名	9/2-9/29
ロング コース	D*	インドネシア大学	1名	8/19-10/6
	E		1名	9/2-10/6
			2名	8/2-10/6

\*：ユニットDとHには異なるコースの学生が混在している。

後期は以下18名の学生が、インドネシア、ベトナム、シンガポール、カンボジアに派遣された。

(86～115 ページ)

コース名	学生ユニット	受入大学	学生派遣人数	派遣期間
トライアル コース	A, B	ウダヤナ大学	6名	2/18-3/2
	D	ベトナム国家大学ハノイ校 教育大学	6名	2/18-3/2
	E	ナンヤン理工大学	4名	2/18-3/1
	F	王立プノンペン大学	2名	2/26-3/7